

## 第4回摂食・嚥下セミナー応用編

今、この時だからこそ口腔ケア・口腔リハビリを！  
口腔ケア専用ブラシを使用した口腔ケア・口腔リハビリ方法



村田歯科医院 黒岩恭子

この数年、患者さん方の全身の症状が重度化の傾向にあり、それと共に口腔環境の整備の悪い状況を見受けま  
す。この状況は、疾病・障害・薬の副作用・認知症等が口腔に影響し、剥離上皮が粘液や食物残渣と共存して  
口腔内に付着し、細菌が繁殖しやすく口腔乾燥をきたし、反対に粘着性の唾液や痰が喀出できず、呼吸が苦し  
くなっていることをうたえることが出来ない患者さん方に遭遇することが多くなっています。

このような口腔内のため誤嚥性肺炎をはじめとして、心身にリスクをきたして入退院を繰り返す患者さんが増  
加しています。

そのため会話や飲食ができなくなり、病院・施設・在宅からどうにか飲食できるようにしてほしいという依頼  
が増えています。

実際患者さんのもとに行ってみると、口腔に関する諸問題が

- ①全身の緊張が高く、上下顎の歯をくいしばり開口できない
- ②身体中が拘縮し開口を促すのに難儀する
- ③頸部伸展して口腔ケア時、飲食時に危険をきたす
- ④口腔ケアを拒否し暴力をふるったり噛みついたりする
- ⑤開口しっぱなしで口を閉じることができない又は、くいしばって開口しない
- ⑥残存歯で口唇を咬みこみ、口唇が咬傷となり痛々しい
- ⑦口腔ケア、咽頭ケアが不十分
- ⑧口腔内の唾液分泌が少なく、乾燥しているか唾液が粘着性である
- ⑨口腔内全周に乾燥した血餅や剥離上皮が張り付いて呼吸が苦しそう
- ⑩痰の量が多い。咽頭(上・中・下)にも絡んでいる
- ⑪口腔の協調運動が不十分
- ⑫流涎を飲み込むことが出来ない
- ⑬残存歯が歯周病で歯肉が発赤腫脹、排膿して動揺している
- ⑭残存歯が虫歯で欠けてしまい鋭利になって口腔粘膜に傷をつけている又、虫歯が痛いことを訴えられない
- ⑮義歯の持ち合わせがなく(総義歯や部分義歯)義歯が口腔内に入らないまま飲食している
- ⑯義歯が機能していないため口腔機能の動きを誤作動している
- ⑰顎関節症もしくは顎がはずれている
- ⑱オーラルディスキネジアがある
- ⑲舌が拘縮ないし萎縮、もしくは肥大している
- ⑳唾液や痰が貯留しむせながら飲食している
- ㉑食事形態が口腔機能や全身状態に合っていない 等々

以上のような状況で苦しんでいる患者さんを、簡単に口腔ケア・口腔リハビリが行なえて、成果が上がり維持  
することができる口腔ケアの方法と共に、飲食できることを可能にする口腔リハビリの主義をお伝えします。